

大西 近江（おおにし・おうみ） 京都大学名誉教授

- 昭和18年 滋賀県に生まれる
昭和41年 京都大学農学部農林生物学科卒業
昭和43年 京都大学大学院農学研究科農林生物学専攻中退
昭和49年 米国ウィスコンシン大学大学院博士課程修了
(遺伝学専攻、Ph.D)
昭和51年 京都大学農学部農林生物学科助教授
平成6年 京都大学大学院応用生物科学専攻
栽培植物起原学分野教授
平成19年 同上 退官



研究概要

- ・京都大学農学部、農学研究科の学生時代はコムギの遺伝学的研究
- ・米国ウィスコンシン大学・国立遺伝学研究所の学生時代：キイロショウジョウバエにおける自然および化学物質誘発ポリジーン突然変異の研究
- ・京都大学での助教授時代(1970 - 80年代)：日本で栽培されているソバの集団におけるクロロフィル異常などの有害遺伝子の保有に関する集団遺伝学的研究
ソバにおける連鎖地図の作成：約50の遺伝子を8つの連鎖群上に配置する地図を作成した。
- ・京都大学での助教授、教授時代(1986 - 2007年)
栽培ソバの野生祖先種の探索と野生種の分布に関する研究

そば祖先種発見

1990年10月中国雲南省永勝県で栽培ソバの野生祖先種 (*Fagopyrum esculentum* ssp. *ancestrale* Ohnishi) を発見。野生祖先種の分布域の調査は2006年まで続けられ、中国雲南省西北部、四川省南西部、東チベットに及ぶことを確認。野生祖先種のうち、雲南省、四川省、東チベットにまたがる三江地域に自生する野生祖先種が栽培ソバに近縁であることをアロザイム、AFLP で明らかにし、これまで主張されていた栽培ソバのシベリア・黒竜江地域説を否定し、中国三江地域起原説の提唱につながった。

当時知られていたソバ野生種約10種の中国、ヒマラヤ山岳地帯での分布を確認した。野生ソバの分布の中心は中国雲南省西部であることを明らかにした。それと同時に未記載の新種を8種発見した。

F. homotropicum, *F. capillatum*, *F. pleioramosum*, *F. callianthum*,

F. macrocarpum, *F. rubifolium*, *F. gracilipepoides*, *F. jinshaense*

これらのうち *F. homotropicum* はソバ野生祖先種に近縁で胚培養をすると、ソバとの間で雑種をつくることのできるため、自家和合性の栽培ソバを育成することが、カナダの Kade Research Co. Ltd. や九州農業センターで行われある程度の成功を収めている。将来自家和合性のソバが商品として生まれるかもしれない。

ソバ野生種、栽培ソバ野生祖先種の探索のため1983年～2006年の間に中国、ヒマラヤ山岳地帯（ブータン、ネパール、インド、パキスタン）へ30回以上も足を運び（1回につき1 - 2ヶ月滞在）築きあげた現地調査による研究成果と実験室におけるアロザイム、AFLP, RAPD, SSRなどの分子マーカーを用いた遺伝学的、系統分類学的研究の成果が組み合わさって栽培ソバ集団における遺伝的変異の保有、ソバ野生祖先種の発見と栽培の起源地の同定、野生ソバの新種発見とソバ野生種の系統分類学的解明に結びついた。

(現職：そば資料館・研究センター副所長)